

不祥事防止研修会実施報告

学 校 名	三次市立三次小学校
研 修 テ ー マ	自分の行為や自校の現状を振り返り、日常に潜むセクハラ・わいせつ行為につながりかねない危険性を再認識する。特に、被害者となる児童・保護者の思いやこれからの人生を変えてしまうほどの出来事であることを認識し、児童とのスキンシップ、身体接触について協議を通して、教職員間の認識のズレをすり合わせ、教職員によるセクハラ・わいせつにかかわる意識を高め、不祥事の根絶に努める。
研 修 担 当 者	不祥事防止委員会
研 修 日 時	令和4年7月28日（木） 14:30～15:30
参 加 人 数	20名
実 施 形 態	協議
使 用 資 料 等	■幸せな学校をつくろう！私が考える「幸せ」な学校 ■健康教室（東山書房） ・学校で起こる性的虐待「スクールセクハラ」等
研 修 の 概 要	(1) 職務に対する「やりがい」「幸福感」とは (2) 被害児童・生徒及び保護者の思い (3) 児童とのスキンシップ、身体接触について
研 修 を 終 えて の 気 付 き 等	○低学年から高学年になる過程で徐々に、職員自らが有用であっても身体接触自体を減らすとともに、児童にも無用な身体接触をしない指導をする必要がある。 ○自分の考えが正しいと思いこまず、「人の意見を取り入れること」「保護者の思いに気持ちをはせる」「日々を振り返る」「おかしいと思ったら声に出す」ことをしていこうと思う。 ○相手との信頼関係が大事だと思った。授業の支援として仕方ないときもある。児童から接触してきたときの距離感を大事にしようと思った。 ○何気なくスキンシップとしてしているが、実は嫌な気持ちになっている児童がいるかも・・・と考えることが大切だと思った。 ○普段何気なくやっていることが、子供たちにとって不快に思うことにつながると思いました。日頃の人間関係も関わるので子供たちとコミュニケーションを上手にとっていきたい。

- スキンシップについては、よりよい人間関係を築くこと、という意味で考えることが大切。まわりで見ている人も気持ちよいということが大切と思った。
- 自分が幸せを感じるために課題をいかに整理していくか？人の考え方もしっかり参考にしたいと思った。自分だけでなく人の幸せも考えなければいけないと思った。
- 子供によって、感じ方が違うので、気持ちを察しながら関わっていくことが大切だと改めて感じた。年齢相応の行動を伝えていくことも大切だと思った。
- 児童への身体接触について慎重に考えなければならない。被害児童や保護者の思いを考えることを通して、セクハラ・わいせつがいかに児童に大きな傷を与えることであるかを実感した。
- 子供が傷つけてしまうことがないように、相手の気持ちをかんがえることを常に意識していきたいと改めて思った。また、第三者から見てどう思うかという視点も忘れないようにしたい。
- 児童や教師にとって本当に必要なスキンシップなのか、考えながら子供と関わっていきたいと思った。必要なスキンシップであっても、周りからどのように見られているのかも考えることが大切だと思った。
- unnecessary 身体接触を避ける必要があると思うが、必要かどうかの判断の難しさがあると感じた。必要と判断して行動しても、それが相手にとっていやだと感じる場合は大いにあると思う。
- 1年生だからという思いで大丈夫だという気持ちがあったなと改めて思った。今後は、必要以上に接触しないように意識していこうと思った。子供にも加減を教えていかなければいけないと思った。
- 被害を受けた児童生徒やその保護者は、今後ずっと傷を負うことになり、成長の過程で得られるはずだった思いや感情を不快に思うことがある。そうならないためにも、私たちはより考えて行動する必要がある。